

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 平岡 伸一郎

2017年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2017年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。以下、各クラスで実施したアンケートを集計し、特進系列、進学系列それぞれ学年ごとにまとめた結果について見ていきます。

①「黒板の字は大きく読みやすいですか」、②「説明の声は大きく聞き取りやすいですか」の質問に対しては学年、系列を問わず、9割前後の生徒が「ちょうどよい」と回答しています。しかし、③「授業のスピードはどうですか」の質問には約8割の生徒が「ちょうどよい」と答えてくれたものの、「もっとゆっくりと」と回答した生徒も十数パーセントおり、生徒の理解力に合わせた授業展開の難しさがうかがえます。

④「授業は分かりやすいですか」の質問には、「分かりやすい」と6割以上の生徒が回答し、「どちらかということ、分かりやすい」の回答も含めると約9割となります。この数字は⑤「授業は、プリント教材や色チョークでの板書など工夫されていますか」の質問に対する回答の数字とほぼ対応しており、特に進学系列は合致しているといつてよい数字となっています。授業に臨む教員が、生徒が理解しやすいように事前にしっかり準備をしている姿勢がこの数字に表れているといえます。

⑦「授業は、先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に対して「参加しやすい」が約60%、「どちらかということ、参加しやすい」が約30%と高い数字となっており、教員が一方的に講義するのではなく、生徒たちに積極的に発問するなど参加しやすい雰囲気作りをしているのがうかがえます。ただ、⑧「授業は、先生と生徒の心が触れ合うものとなっていますか」の質問に対して、「心の触れ合うものとなっている」という回答が約55%となっており、⑦の質問に対する回答の数字より少し下がっています。教員と生徒という一線は画しながらも、生徒の心の垣根を取り払う努力を今後も続けていきたいと思えます。

⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」、⑩「授業を受けて、学力が

ついたと思いますか」の両質問に対する回答の数字もほぼ対応しています。それぞれの質問に対する回答は、「興味が深まったと思う」「どちらかという、興味が深まったと思う」の回答が約9割、「学力がついたと思う」「どちらかという、学力がついたと思う」の回答も約9割となっています。教員が興味・関心を引く授業をすることによって、生徒も知らず知らずのうちに授業にのめり込み、それが学力向上につながったと考えられます。もう少し「興味が深まったと思う」「学力がついたと思う」の数字を引き上げることができればと思います。また、⑭「この教科の内容は理解できますか」の質問に対する回答、「理解できる」「だいたい理解できる」も⑨、⑩の回答の数字と対応しても不思議ではないのですが、なぜか回答の数字が少し下がります。学校での授業内容を定着させるためには、家庭での反復学習が必要と言えそうです。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

まず、授業に臨む姿勢についての自己評価では、「チャイムが鳴ったら席に着く」という質問に対して、特進系列、進学系列とも1年から2年に学年が進むと「守っている」と回答した生徒の数字が10ポイント以上上昇しています。学年が進むにつれ、マナーを守ろうという姿勢が高まっていることがうかがえます。「教科書、ノート、教材を机の上に出している」という質問に対しても、1年から2年に学年が進むと「守っている」と回答した数字は上昇しており、学習に対する前向きな姿勢が向上していることがうかがえます。

次に授業を受ける態度についての自己評価では、「授業中にノートをとる」の質問に対して、「守っている」と回答したのは進学系列では学年を問わず7割を超え、特進系列では8割を超えて、自己評価アンケート中、一番高い数字となっています。どの教科でも授業ノートは教科担当者が平常点をつける際に大きなウエイトを置いているためと思われます。「授業中いねむりをしない」「私語をしない」の質問にも「守っている」「だいたい守っている」の数字は学年が進むにつれ向上しており、生徒の授業態度が良くなってきていることがうかがえます。特に特進系列ではその傾向が顕著に表れています。アンケートは3学期に実施しており、特進の2学年のこの時期になるとそろそろ大学受験を意識するようになるので、それがこの結果につながったかもわかりません。

「授業中にほめられることがある」の質問の回答で、「よくほめられる」が高校計で5%、「たまにほめられることがある」が高校計で27%にとどまっています。授業の進度の関係もあり、授業はとかく一斉講義的になってしまいがちですが、教員から生徒に積極的に発問し、その答えを好意的に受け止めてあげるなどのアプローチが必要なのかもしれません。

最後に学習についての自己評価では、「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問に対して「きちんと取り組んでいる」との特進系列の回答が、1年から2年にかけて35%から53%にはねあがっているのが目を引きます。先ほども言及したように特進2年では大学受験を意識し始める時期を迎えているというのが、この結果になったと言えそうです。逆に1年の数字が低いのは、高校生活の中だるみということが考えられます。「1日に家庭学習をどの位していますか」の質問に、特進1年では「1時間くらい」38%、「30分まで」29%となっているのが、特進2年では「2時間以上」23%、「1時間くらい」46%と学習時間がかなり伸びています。欲を言えば各学年あとプラス1時間、学習時間を確保してもらいたいと思います。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

まず、教員の生徒に対する指導についての質問、「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」、「この学校の生徒指導は、適切であると思う」、「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」に対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」という回答がすべて8割を超えています。その中でも「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」という質問については、他の質問より「よくあてはまる」の数字が高くなっています。いじめの取り組みについては、人権教育推進部が実施しているクラス・クラブ対象の年間5回のいじめ調査などを評価したものだと思われます。進路情報に対する高い評価は、進路指導部による大阪産業大学との高大連携プログラム、職業・分野別説明会、特進コース2年・3年の生徒を対象に実施している関西大学見学会、グローバルコース2年の生徒を対象に実施している関西外国語大学見学会などの取り組みを通じ、生徒に大学、学部、学科、職業について学ぶ機会を多く作っているのが理由だと思えます。「私は、進路について目標を持って毎日の学校生活を送っている」という質問に対しても、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と約7割の生徒が回答しているのも、教員の生徒への進路情報発信の成果の表れといえそうです。

次に生徒の学校生活についての質問、「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」、「この学校は、生徒が清掃にしっかり取り組んでいる」に対しては約9割の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、本校生徒が学校生活に対して前向きに取り組んでいる姿勢が良く表れています。なかでも「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に対しては、「よくあてはまる」と6割の生徒が回答し、「ややあてはまる」まで含めると回答した生徒は95%となっています。生徒が挨拶を自然にできるのは、本校の大きな長所なので、今後もこの校風は伸ばしていきたいと思えます。しかし、「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」、「この学校の生徒は、校則を守っている」の質問に対しては、「よくあてはまる」の回答の数字があまり高くなく、けじめをつけることが課題と言えそうです。